

13期生 太田 宏道さんにお話を伺いました。 RBSで過ごした貴重な2年間

取材記事 / 15期生 山本 寿子

— RBSで2年間を過ごして、良かったと実感していることは

太田：様々な業種で働く方々や自分とは異なる考えや発想法を持った人たちとディスカッションなどを通して切磋琢磨できたことが一番の宝だと思っています。

当然のことながら、人は置かれた環境や経験により培った独自の意見や考えを持っています。そのような仲間と相手の意見を尊重し、自分の考えも発信しながら、グループとして合意形成させることはとても大変な作業の連続でしたが、一企業の中だけではできなかった経験でした。

ある一定期間「社会人」として経験した後、再び学生としての立場で意見を言ったり、自分が経験してこなかった分野の専門性の高いことを学べたりしたことも正に新鮮でした。

そして、これからもつながり合える新しい仲間と知り合う事ができたこともとても良かったことの一つです。

— 特に授業において、良かったと感じることは

太田：前述の通りですが、加えるなら、今までのビジネス経験や実績に対して、裏付けができたことです。また、自分が苦手な分野の授業を取ることで、新たに仕事に活かせることがあるなど幅広く学べたことです。

2年間が充実しておりあっという間に終わってしまったのが、残念なくらいです。

— RBSで得たものが、今の仕事にどのように役立っていますか

太田：例えば、授業以外では、RBSの同期、先輩、後輩の方々の人的ネットワークで、修了後も交流が途絶えず、仕事面で協力関係を築いていただけていることです。

別の角度では、修士論文（ビジネスデザイン）において、ありがたいも優秀賞をいただきましたが、そのビジネスプラン「大学生のための奨学金返済支援事業」をまだ一部ではありますが実現しています。

RBS時代は勤めていた企業を退職することなど全く考えていなかったのですが、「志」を持って物事を進めると形になっていくのだと、感慨深いです。多分、RBSの様々な学びから得られた自信が後押ししたのだと思います。

— 卒業後の実感として、このような気持ちで授業や課題に臨んでいたら、その後の人生に生かされるだろうな、と振り返ることは

太田：幅広い年齢層や異なる考え方などを持った相手の意見をまず聴くことが大切だと思います。相手の意見を尊重し協調性があれば、先生方や学生の方々と円滑なコミュニケーションがとれるようになります。また、同期、先輩、後輩の方々と積極的に関わる事で良いネットワークが構築でき、楽しい学生生活が送れると思えました。



太田 宏道さん

Profile ●大学卒業後、銀行員としてキャリアをスタート。銀行では、個人事業主および中小企業への資産活用コンサルティングを経験。その後、人材育成に興味・関心がありベネッセグループへ転職。法人営業部署の新規立ち上げを担ったり、企業のグローバル人材育成支援をしたりする部署のマネジメントに携わる。2017年1月の退職時には、大学改革統括ディレクターとして大学の中長期計画、教学改革システムの構築をサポートしたり、法人営業で培った企業とのネットワークを活かし、大学を核として高校や企業をつなぎ地域活性化を推進する「産学連携協議会」等をプロデュースする業務にあたる。この3月に「OK ファシリテーション、LLC」を設立、大学改革の支援や学生向け研修事業を中心に日々邁進している。

— 最後に、後進へのメッセージを

太田：第一にお伝えしたいのは、2年間は長いようで短いです。在学中にやりたいことは積極的に取り組む事が大切です。働きながらの単位取得や修士論文はとても大変でしたが、修了後は大きな満足感や達成感が得られました。

そして、第二は具体的なことですが、修士論文は早めに取り組む事をお勧めします。私の場合は1年目に構想を練り始め、2年目の春には具体的にプランに落とし込み、ゼミの先生からアドバイスを頂きながら9月にはある程度完成させました。それ以降はゼミでの発表でゼミ生からもアドバイスをもらい修正を加え、1月の口頭試験を目標にプレゼンテーションの準備をして無事に終わらせることができました。

最後ですが、授業にしても修論にしても、2年間の大学院生活を満喫してほしいと思います。ビジネスデザインフォーラム等で皆さんと交流が持てることを楽しみにしております。

<p>BizCom Vol.56</p> <h3>編集後記</h3> <p>Editor's postscript</p>	<p>無事に、1年間編集長を務めることができました。皆様ありがとうございました。 (富岡 哲也)</p>	<p>今号よりM1の皆さん中心の編集です。今後、編集デザインも変化していくかもしれませんが、それも楽しみです！ (青樹 宏一)</p>	<p>今回は目が覚めました。殻を破れるように精進いたします。ご指導頂きありがとうございました！ (福澤 雄太)</p>	<p>ビジネスシミュレーションはチームごとに雰囲気が違うのはもちろん、曜日ごとにも違うのも魅力的でした！ (川村 師大)</p>
<p>各研究会とRBSだよりの執筆者様、ご協力者の方々、お忙しい中、ご協力していただき有難うございます！ (河野 孝徳)</p>	<p>短い期間で発刊する編集者への尊敬と感心の心が自然に生まれて来ました。皆さんぜひ読んでください。 (黄国紅)</p>	<p>大変な分、学びの多い作業でした。シミュレーション記事は各チームの特色が出ています。是非ご一読下さい！ (島田 彩子)</p>	<p>時間的制約の中で編集作業を進める大変さと醍醐味を感じることが出来ました。ご一読いただけて幸いです。 (松木 純一郎)</p>	<p>今回「ビジネスシミュレーションチーム紹介」の編集仕事を通して、この授業への理解が深くなりました。 (劉 魁曉)</p>